総合科学教育研究センター

Center for Integrated Sciences and Humanities

講義の紹介 No.03

英語Ⅱ

英語Ⅱでは、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能の力を伸ばすこと、特に、産出技能（productive skills）を重点的に扱い、ライティングやスピーキングの能力やスキルを身につけることを目的とし、担当教員ごとに特色のあるプロジェクトを設定しています。

安田尚子教授のクラス

漫画作成を通じたライティング活動やスピーキング活動を行っています。パラグラフの要点をまとめたコミック風ポスターの作成や紙芝居風アニメを作成し、パラグラフライティング、自然な会話表現やイントネーションなどの習得を目指しています。

久保田恵佑講師のクラス

指定のトピックや自身の興味に応じたブログを通じたライティング活動を行っています。指定のテーマや自身で選定したテーマに関する情報を集めて記事を執筆し、統合的なリーディングスキル、パラグラフライティング、テーマに適したライティングスタイルに関する知識などの習得を目指しています。

サークル活動紹介

01 Tomorrow

私達は福島県の復興、福島市の活性化を目的に活動しているボランティアサークルTomorrowです。今年5月27日に小学3～6年生を対象に第2回医療体験セミナーを開催しました。保健科学部4学科の特徴を活かして様々なブースを設け、スタンプラリー形式で小学生に楽しみながら医療体験をしてもらいました。大変好評でしたので、第3回医療体験セミナーを12月16日土曜日に小学校高学年～中学生（予定）を対象に開催したいと思っています！ぜひご参加ください！

02 軟式野球部

今年度、新たに軟式野球部が設立されました。保健科学部の学生を中心に、約40名の部員が活動に参加しています。月1回程度、荒川運動公園で部員たちと、キャッチボール、ノック、ロングティーといった練習を行っています。5月の新歓には多くの1年生が参加してくれたおかげで、紅白試合を開催することができました。また、6月には社会人チームからお誘いいただき、光が丘キャンパスのグラウンドで練習試合を行い、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

後援会だより

5月20日に、保健科学部後援会主催による令和5年度「新入生保護者と教員との懇談会」が福島駅前キャンパスで開催され、web参加を含め70名を超える新入生保護者の方にご参加いただきました。

当日は各学科の教員より、学科特性や4年間のカリキュラム、臨床実習に関する説明があり、大学での学びに対する具体的なイメージを持っていただきました。

また、学生生活に関する相談や、懇談会終了後にキャンパス見学会を実施し、貴重な交流の機会となりました。

編集後記

七月初旬に保健科学部開設以来初のフルオープンでのオープンキャンパスが開催されました。準備から当日にかけて学生たちのキラキラした表情がとても印象的で今でも鮮明に思い出されます。当日、多くの若者の熱気で溢れた福島駅前キャンパスを見ていると、まだまだこれから、地域に、そして世界に発信できることが沢山あると勇気づけられました。ぜひ学生たちには、将来を見据えながらも、存分に学生生活を謳歌してほしいと思います。

今号では、各学科の特色を限られた紙面で、（ほんの一部ですが）魅力満載に紹介しています。引き続き、地域の皆様とともに学生・教員一丸となって、保健科学部の歴史を築いていきたいと思います。

編集担当　川﨑 伊織

公立大学法人 福島県立医科大学

発行／福島県立医科大学保健科学部
〒960-8516 福島県福島市栄町10番6号 福島駅前キャンパス
TEL 024-581-5503　FAX 024-581-5528

お問合せはこちらまで
https://fmu-hs.jp/

発行年月日／令和5年9月1日

公立大学法人 福島県立医科大学

保健科学部 News Letter

FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

Vol.04

2023年9月

福島駅前キャンパス屋上からの景色

3期生を迎えて

保健科学部長　矢吹 省司

令和3年4月に開設された保健科学部ですが、2年が経ち令和5年4月に3期生を迎えることができました。医学部、看護学部との合同の入学式の時は緊張していた3期生ですが、各学科の先輩方（2年生と3年生）の歓迎を受け、すっかり保健科学部に馴染んでくれています。今月（令和5年7月）末からは初めての定期試験が始まります。みんなが勉強に勤しんでいる姿は頼もしい限りです。

さて、COVID-19（コロナ）が5類になったとはいえ、実習で病院に行ったりするのでコロナ禍前のようにはマスクが外せない状況が続いています。しかし、部活動やバイトなどがほぼ通常通りにできるようになって、保健科学部外との交流も盛んになってきました。大学生の間にいろんな方との交流を通してさまざまな経験をして欲しいと願っています。

今年のオープンキャンパスは、初めて事前予約なしのフルオープンで開催しました。在校生が趣向を凝らした内容で来場者に保健科学部の良さをアピールしてくれました。来年は多くの高校生が保健科学部を受験してくれるのではないかと期待しています。ご家族、福島市民、そして実習先の皆様の協力を得ながら、逞しくて優しい専門医療技術者を養成していきたいと思いますので、今後ともご指導の程よろしくお願いします。

保健科学部の特色

教育環境

- 各分野に精通した経験豊富な教員を全国から招へい（67名）
- 医療機関等で実際に使われている高度な実習機器を導入

カリキュラム

- 県内唯一の特定機能病院である附属病院などにおいて、充実した臨床実習を実施
- 医学部・看護学部の教員も一部の授業を担当。より専門性の高い教育を受けられる体制
- 医学部・看護学部の学生との合同授業により、チーム医療を実践的に学べる
- 福島県の地域医療や災害医療を学べる

TOPICS

入学式 （令和5年4月5日）

ふくしん夢の音楽堂（福島市音楽堂）において、保健科学部新入生145名を含む、医学部・看護学部・大学院の新入生426名を迎えて令和5年度入学式が開催されました。

竹之下学長からは、「これからの学びの中で必ず挫折や困難を経験することになるが、ピンチこそが一歩前に進むチャンス。たゆまぬ挑戦の繰り返しによって、今日ここにいらっしゃる全ての皆さんがその志を実現することを祈っています。」と式辞がありました。

また在校生による歓迎の言葉では、臨床検査学科3年の馬場新大さんから「何事にも積極的に挑戦し、自分の可能性を拡げ、卒業時に大学生活を振り返ったとき、『満足のいく形で時間を使い終えた』と思うことができるよう、これからの大学生活に意欲的に励んでいただきたいと思います。」と激励の言葉がありました。

年間GPA※表彰式 （令和5年6月5日）

昨年度1年間の成績に基づいて、各学科の学年1位を修めた学生が表彰され、賞状および副賞が授与されました。

2期生

理学療法学科 五十嵐 美咲
作業療法学科 小澤 菜月
診療放射線科学科 渋谷 彩乃
臨床検査学科 松﨑 優聖

1期生

理学療法学科 菅 天音
作業療法学科 渡邉 美智子
診療放射線科学科 相山 優香
臨床検査学科 小谷 斗彩

※GPA（Grade Point Average）：科目ごとの成績をポイントに換算した数値を、単位数に応じて加重平均したもの

授業風景1 『福島県を知る』 （令和5年4月26日）

学芸員の講話を熱心に聴講し、福島県への理解を深める

本学部には「福島県を知る」という科目があります。この科目では様々な講義の他、博物館や美術館の見学やフィールドワークを通して福島県についてより深く学びます。

本年は、会津地方のフィールドワークに出かけてきました。

福島県立博物館での学芸員の講話の聴講や展示物の見学、鶴ヶ城自由散策、そして会津の郷土料理を味わいました。このフィールドワークを通して、福島県への理解を深めるとともに、学生間の交流も深まった様子でした。

自由散策で行った鶴ヶ城で、城内の赤べこと一緒に

授業風景2 『チーム医療Ⅰ』附属病院見学 （令和5年5月8日）

「チーム医療Ⅰ」では、4月に各職種の役割を学び、5月8日に行われた附属病院見学では、半日で7部署を見学し、3部署の講義を受けました。各部署10分程度と短い時間でしたが、実際の業務を見聞きすることで自分の将来像を明確化し、チーム医療の実際を体感できた様子でした。

臨床検査学科
Department of Clinical Laboratory Sciences

新着任教員紹介

助教
平田 理絵

令和5年4月に臨床検査学科に着任しました。出身は青森県弘前市です。臨床検査技師として東北大学病院に12年間勤務していました。専門分野は脳神経で、生理検査に関する講義、実習を担当します。

第12回日本検査血液学会東北支部総会および学術集会の開催報告

学会に先立ち挨拶する小川学科長

6月10日、保健科学部を会場として、第12回日本検査血液学会東北支部総会・学術集会が行われました（大会長 小川一英 学科長）。本会は、東北地区の医療施設で働く血液検査を専門とする臨床検査技師を主な対象とし、当日は臨床検査技師や医師など90名が集いました。臨床検査学科の学生の参加もありました。多目的ホールで症例検討や研究報告、特別講演が行われたあと、日頃から学生が顕微鏡実習を行っている検鏡室に移動し、顕微鏡やバーチャルスライドを使用して講演で提示された症例の血液細胞を皆で観察し理解を深めました。参加者からは、「最先端の教育・医療機器で学ぶことができる福島医大の学生がうらやましい」という声が多数聞かれました。

学科交流会 （令和5年5月12日開催）

3学年合同学生交流会を開催しました。皆でお弁当を食べ、2、3年生の代表者に学校生活や学生の1日の過ごし方などについてスライドを用いて紹介してもらいました。1年生の笑顔が見られて嬉しかったです。その後、グループに分かれてフリートークを行いました。先輩が後輩に試験やアルバイトについて熱心に教えている姿がとても印象的でした。（3年 馬場 新大）

「ぐぐるプロジェクト」の大学生漫画作成部門で優秀賞

受賞作品一部抜粋

絵を描くのが趣味で自分の好きな事を利用して福島県や放射線のイメージアップに貢献できるならと思い応募させていただきました。人間、自分が知らないものには無意識に恐怖も偏見も抱いてしまいます。そんな無知で自分が傷つけてしまっている人がいる、だからこそ正しい知識をもって他者と自分との違いを理解して歩み寄っていく姿勢を大切にしてほしいということがこの作品のメッセージです。作品作りを通して自身も放射線の理解と学びを深められる貴重な経験でした。（2年 檜山 梨花）

受賞式
左から3人目が檜山梨花さん

学びの様子

医療安全管理学演習Ⅰ（2年生）

生徒同士による採血実習を行いました。初めは漠然と人の体内に針を入れることに対する不安が大きかったです。しかし、講義や先生方の助言から正しい知識と留意点を具体的に知ることで余計な不安を取り除き集中して手技を行うことができました。接遇の面でも患者さんの立場にもなることでよりよい対応を考える良い経験になりました。
（2年 伊藤 靖季）

採血実習の様子

臨床化学検査学実習（3年生）

臨床化学検査学実習では、患者検体を用いて、定量検査や電気泳動などを行ってきました。自分たちの手技が測定結果に大きく影響し、その結果が疾患に結び付くため、緊張感をもって実習に取り組んでいます。

学生生活も折り返しとなりました。1期生として前例がなく、大変なこともありますが、友人たちと協力し、充実した生活を送りたいです。（3年 髙橋 萌美）

ALP活性測定の様子

診療放射線科学科
Department of Radiological Sciences

新着任教員紹介

助教
宮司 典明

出身は東京都です。これまでがん専門のがん研究会有明病院に11年間勤務しておりました。専門は腫瘍核医学となり、核医学に関する講義や学生実験を主に担当しています。がんを内部から破壊する核医学治療に関する研究を行っています。

新学科長挨拶

学科長 **加藤 貴弘**

令和5年度より学科長を拝命いたしました。これまで本学部の立ち上げから携わってまいりましたが、開設3年目を迎え、いよいよ本格化するこのタイミングでの就任ということでその責任の重さを噛みしめながら日々奮闘しております。

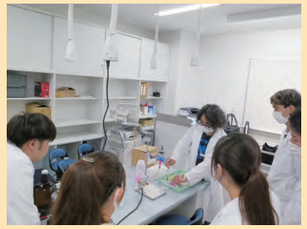
学びの様子

3年生

1期生は3年生になっていよいよ臨床に則した実践的な実習が始まりました。X線撮影、透視やCT撮影の実習ではファントムを使ったり学生同士でポジショニングし合ったりして撮影体位や撮影条件を学ぶとともに患者さんの気持ちに寄り添える接遇も学びます。他にもMRI、核医学、放射線治療の実習も本格的に始まり、学生たちは少人数だからできる密度の濃い実習を通して1歩ずつ医療人への道を歩んでいます。

2年生

2年生で実施する「放射線基礎科学実習」では、放射線を取り扱うための基礎的な手技を実習形式で学習します。写真は、カラムクロマトグラフィーという実験で、3種類の混合物から1種類を単離します。実習では放射性物質の替わりに色素を用いています。黒い混合物からきれいなピンクの色素が単離できます。また色素に紫外線を当てると蛍光観察もできます。放射性物質を調べるための基礎的技術を身に付けることができます。



学科交流会（令和5年4月7日開催）

診療放射線科学科1年生と2・3年生、教員が参加した交流会が開催されました。グループごとに新入生の不安に対するアドバイスや先輩・教員の経験談などについて意見交換を行い、最後に全員で記念写真を撮影しました。

ホールボディカウンター寄贈

放射線による内部被ばく線量を計測するホールボディカウンターが福島医療生活協同組合様より保健科学部へ3月7日に寄贈されました。本学の特色として、学生はこの装置により実践的に福島の環境を学ぶことができます。

EVENT

令和5年 7月8日

オープンキャンパス

福島駅前キャンパスで、オープンキャンパスを実施しました。これまでの申込制とは異なる、初の入場制限なしの開催となり、当日は746名の高校生と、保護者・中学生等の来場者を合わせて合計1,354名にご参加いただきました。

理学療法学科

理学療法学科では、学生による「徒手筋力計」や「バイオデックス」を用いた筋力測定、筋活動を視覚的に確認できる「バイオフィードバック療法」や電気治療器である「機能的電気刺激」、「重心動揺計」を応用したゲームのデモンストレーションを行いました。来場者からの相談は100件以上にのぼり、模擬授業は立ち見の方が出るほどでした。

作業療法学科

次世代型の電動車いすや革細工体験、3Dプリンタを用いた自助具の作成方法、eスポーツを行う工夫など、作業療法の支援技術の展示・体験の場を設けました。相談コーナーでは、在学生に学生生活や受験勉強について相談する高校生も多く見られました。作業療法の支援技術は多種多様です。受験生の皆さん！本学科に入学し、皆さんの知恵とアイディアで作業療法の可能性を一緒に広げましょう！

診療放射線科学科

1,000名を越える参加者が午前中に集中したため、診療放射線科学科の地下フロアは人であふれて熱気ムンムンな状態に！実行委員長の和知君が、イベント臨時枠を作成し頑張ってこなしてくれました。一方、各企画の説明や相談コーナーでは丁寧な対応を行い、保健科学部の魅力を伝える事ができたと考えています。全員で記念写真をとり無事終了することができました。オープンキャンパスがきっかけとなり当学科を希望する受験生が増えてくれる事を期待します。

臨床検査学科

臨床検査技師ならではのピペット操作や心電図検査。顕微鏡での組織や細胞、微生物観察を体験して頂きました。多くの皆様が学生達の説明に熱心に耳を傾けていました。普段の講義や実習ではみられない、学生達の活き活きとした姿が印象的でした。臨床検査学科を知っていただくとともに、学生にとってこれまでの学びを発揮できる良い場となりました。続く後輩諸君！楽しみにお待ちしております。

理学療法学科
Department of Physical Therapy

新着任教員紹介

助教
髙橋 恵里

出身は大阪府です。宮城県に転居して10年になります。今回、福島県に関わらせていただけることをとても嬉しく思います。専門は小児領域で、発達障害のあるお子さんの身体機能に興味を持っています。

助教
佐藤 聡見

伊達市出身で高校生活はこの福島駅前が通学路でした。約20年ぶりに故郷に帰ってこられたことをうれしく思っています。専門は心臓疾患や腎臓疾患を患う方への理学療法です。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

新学科長挨拶

教授 **高橋 仁美**

私は臨床現場で37年働き、令和2年に国際医療福祉大学での経験を経て、令和3年から福島県立医科大学に着任しました。学生の成長と保健科学部の発展に全力で取り組み、信頼関係とチーム医療の促進に努めます。

学科交流会（令和5年5月31日開催）

2年生企画による学科交流会を行いました。今年は、光が丘の体育館を借りて、ドッジボール大会です。教員や3年生有志も参加し、6チームに分かれて、トーナメント方式で戦いました。決勝戦はまさかの両チーム同点優勝となり、大変盛り上がりました。運動不足？の教員のケガもなく、授業のときには中々見られない学生の元気な様子を見ることができて、とても有意義な交流会となりました。

学生の感想

ドッジボールでは、先生方も同じチームに入られていたので、「若い先生がご年配の先生を狙う」、「学生がそれを守る」など、笑いのたえない、とても楽しい時間でした。（1年生）

集合写真と、試合の様子

学びの様子

模擬患者さんにご協力いただく授業

理学療法学科では、2年生の評価学や3年生の医療面接の授業で模擬患者さんにご協力いただいて授業を行っています。模擬患者さんは約半年間の養成講座を受講した地域在住の方々です。指定された患者の役割を演じていただくために、練習会を重ね準備をしていただきました。授業の当日は、学生同士で行う実技とは異なる緊張感の中、医療面接では患者さんに寄り添って、訴えを聞き治療に必要な情報を引き出すための問診を、評価学では、血圧や体組成の測定の他、地域で行うことの多い各種体力測定などを行いました。

学生の感想

臨床実習の前に、一般の方を対象に測定させていただけたということが、とても貴重な時間だと感じました。説明のやり方や触り方など、普段、学生を被験者にしているので、違いを感じることができました。（2年生）

模擬患者さんへの医療面接の様子

より専門的な授業へ

3年生の物理療法学演習について紹介します。2年生の物理療法学で、温熱、寒冷、電気刺激、光線など各種物理療法の物理学的、生理学的作用、適応と効果、禁忌などを学習し、その知識を踏まえて、3年生の演習では、学生同士で各種物理療法を実施します。物理的刺激が生体に及ぼす影響や、刺激を与える組織による差異を検証するために、物理療法の前後に関節可動域などを計測します。最終的に学生全員の計測結果を集計し、結果に対して考察を行ってもらいます。

作業療法学科
Department of Occupational Therapy

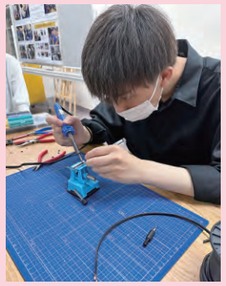
新着任教員紹介

助教
小笠原 牧

青森県出身です。趣味は音楽鑑賞とヨガです。精神科病院と介護老人保健施設で働いた経験を活かして、福島県の健康増進に貢献できるよう頑張ります！

学びの様子

3年生で開講する身体障害作業療法学演習では、対象者の方が、障害があっても生活（活動）しやすい環境調整の工夫、支援技術を学びます。作業療法は対象者に合わせたオーダーメイドの支援が求められます。時には、必要な道具などを作業療法士自身で作り出すこともあります。写真では、Nintendo Switchを手が不自由な方でも使いやすくなるように自作のコントローラー（操作スイッチ）を作っている様子です。そして自分で作ったスイッチで実際にゲームを操作しながら、使用感を確認します。「障害があるからできない」ではなく「障害があってもできる」という作業療法の理念と思考を学生のうちから養える講義となっています。



学科交流会（令和5年4月12日開催）

作業療法学科1～3年生、約100名と先生方で交流会を行いました。先生に関するクイズなどいくつかのレクリエーションを通してグループ内の他学年のメンバーとの仲を深めるとともに、先生方との距離も縮め、学科内の繋がりを一層強めることができたと思います。
（3年 山﨑 咲楽）

研究活動紹介

藤田貴昭 准教授の研究活動

身体障害のある方に対する効果的なリハビリテーションを探索するために、北福島医療センター（伊達市）と共同研究を進めています。例えば、脳卒中や大腿骨骨折を経験した方が生活を自立するために必要な機能を客観的数値として算出したり、自宅に退院するために必要な要因などを調査しています。これらの研究は、リハビリを計画する際に役立つ情報となります。

また近年では退院後の患者さんも支援するために、自宅での転倒の実態調査や介護者の抑うつを避けるための研究も行っています。今後も福島県に根差した研究を続けながら、福島県の医療の質の向上に少しでも貢献していきたいと考えています。

学術集会に参加しました（令和5年6月17-18日）

福島駅前キャンパスで、作業療法学科の川又寛徳講師が大会長を務める第32回日本作業行動学会学術集会が開催されました。全国から約100名の作業療法士が集まり、特別講演や演題発表が行われ、盛況のうちに終わりました。作業療法学科の学生16名も実行委員会の一員として参加し、役割をこなしながら、参加者同士の議論に耳を傾ける様子や、積極的に質問し、参加する様子が見られました。